

1 教科について

国語

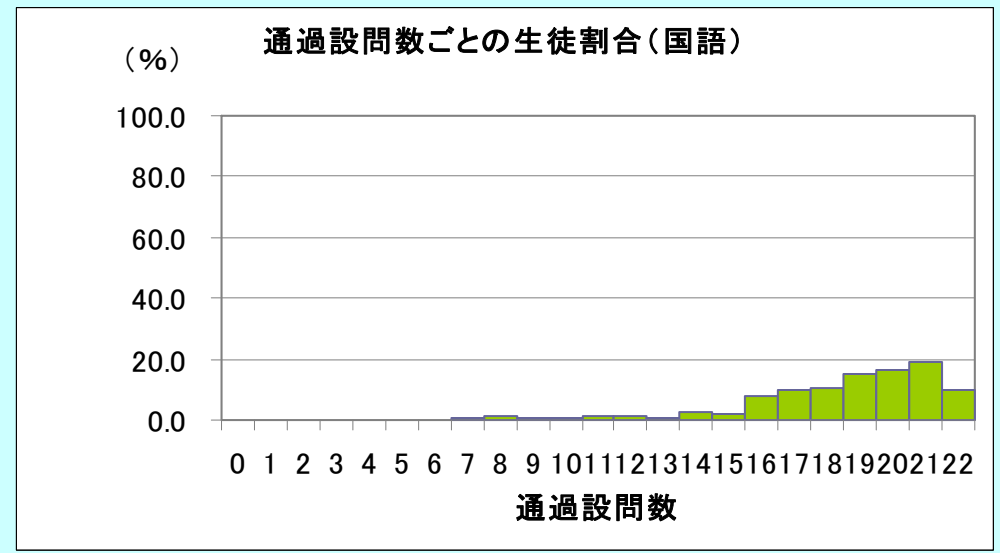
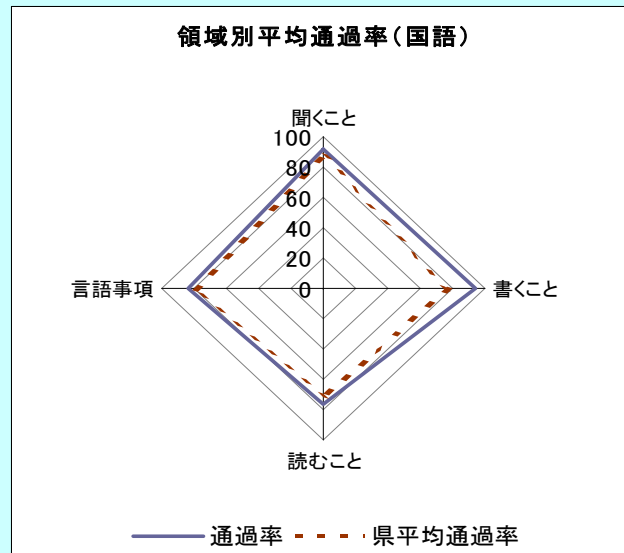
昨年度の課題

- ① 言語事項において行書の基礎知識、特に行書になると筆順が変わる字について理解させる。
- ② 言語事項において「天気が持ち直す」などの事象の行為を表す語句について理解させる。

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ①毛筆・硬筆の学習で行書の知識を定着させる。
特に、行書と楷書の違いについて学習し、行書に慣れ親しませた。
- ② ことわざや慣用句など「ことば」に触れさせる機会を増やす。具体的には、授業中にも「ことば」を使った短文作りなどをさせる。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 84.1% 県平均 77.5%



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎ 情景描写あるいは登場人物の言動を根拠として、登場人物の心情を把握しながら読む力が不足している。
- ◎ 段落相互の関係を意識しながら構造的に説明的文章を読む力が不足している。
- ◇ 目的意識を持ちながら表現する力が不足している。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 情景や人物の描写、あるいは登場人物の言動から登場人物の心情を考えながら読む指導を行う。その際に、読み取った登場人物の心情を「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関連づけた言語活動を行う。
- ② 各段落が文章全体に対してどのような役割を果たしているのか読み取る指導を行う。文章を前からなぞるように読むのではなく、筆者が読み手にどのように説明しているのか形式を意識させる。習得した形式を参考にしながら自らも説明的文章を書く。
- ③ 「書くこと」領域の指導の際に、相手・状況・設定といった目的意識を明確にして指導を行う。

来年度の目標値

- 通過率40%未満の生徒の割合を0とする。
- 「読むこと」領域において、県平均よりも5ポイント以上上回る。

指導方法等の改善計画について

数 学

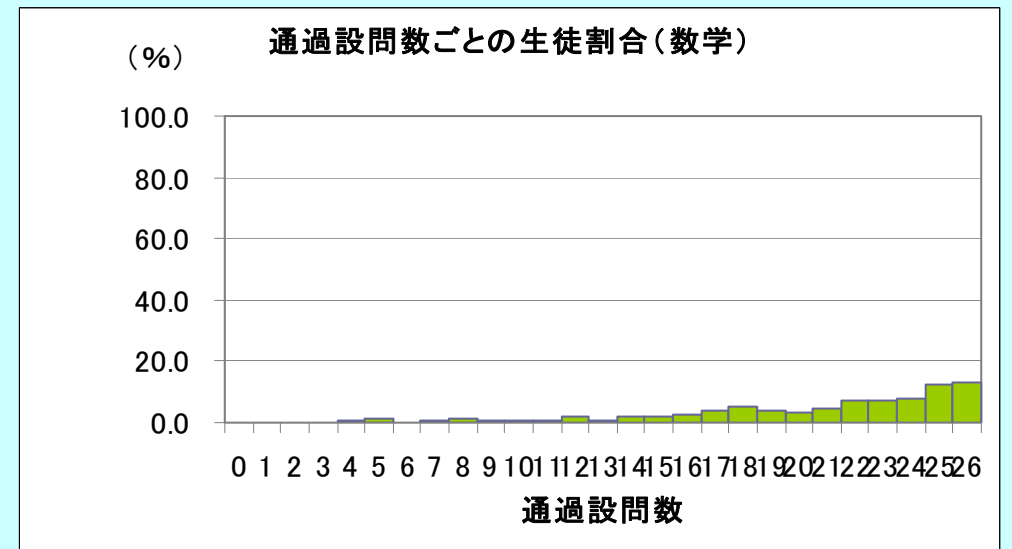
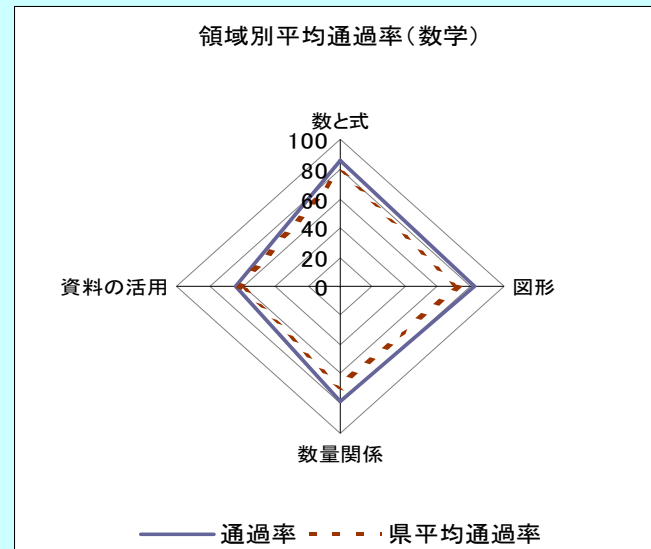
昨年度の課題

- ①「数と式」での正負の数を活用し、説明をする問題の無回答率が13%もあり、説明することに課題がある。
- ②垂直の面を選ぶ問題で誤答率が49%であった。図形の分野での基本的な垂直の知識、また、空間的に物を見る力に課題がある。
- ③関係を文字式で表す設問では、無回答率が10%であり、誤答率36%であった。規則性を見つけることも難しく、文字に置きかえることに抵抗がある。

昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

- ①基本的な正負の知識についてどの分野のときにも復習をし、生徒自身が説明をする機会を増やす。また、回答をさせる際に理由をきちんと答えさせるようにした。
- ②図形の分野で実際の模型を用いて生徒に考えさせたり、空間的には予想をさせ、実際に調べることで理解を深めさせた。
- ③文章を読み解く際に情報を一つ一つ押さえながら丁寧に説明し、求めたいものなどを具体的に考えさせるようにした。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **81.6%** 県平均 **72.6%**



重点課題

- ◎ : 「基礎・基本」定着状況調査
- ◇ : 全国学力・学習状況調査

- ◎「文字式をよむ」や「関係を文字式で表す」ことの設問の通過率が低く、文字を扱うことに対して抵抗がある。
- ◎「図形」領域では、円すいの体積やおうぎ形の面積を求めるなどの公式についての理解が不十分である。
- ◎相対度数の意味や比例の意味など、意味についての設問の通過率が低い。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①文字式を求めるだけでなく、与えられた文字式になるような問題を考えさせるなど、解法の逆の過程についても考えさせる。
- ②面積や体積を求める問題においては、公式の意味について考えさせ、公式を活用することのよさを理解させる。
- ③比例や反比例、重要や用語などについては、一つ一つ押さえながら丁寧に教え、ノートに写すだけでなく、自分の言葉としてまとめさせる。

来年度の目標値

- 資料の活用において、県平均よりも10ポイント以上上回る。
- 誤答率が40%以上になる設問を出さないようにする。

指導方法等の改善計画について

英語

昨年度の課題

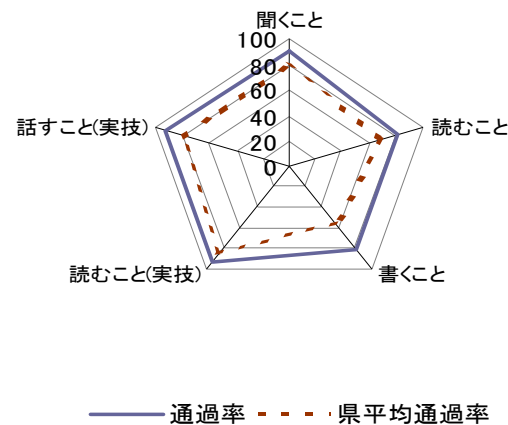
- ①「聞くこと」においては、概要や要点を理解したりする問題の正答率が48.7%と低かった。
- ②「書くこと」においては、自分の考えや気持ちなどを読み手に正しく伝わるように書く問題で、正答率が66.8%と低かった。
- ③「読むこと」では、適切な語を用いての会話文の組み立てを答える問題において、無回答はなかったが、正答率が34.0%と低かった。

昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

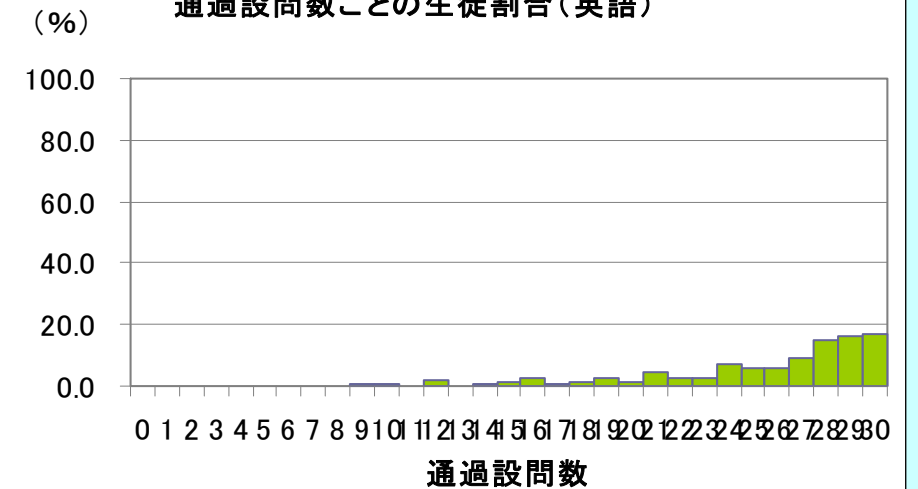
- ①聞き取り能力をアップさせるためにも、音読練習を増やし、英語を読んだり聞いたりする機会を増やした。
- ②まとまりのある英文や会話文に慣れさせるため、聞き取りポイントを示して英文を聞かせる練習をした。
- ③ALTと協力して自分の考えや気持ちなどを正しく伝えるモデルを示し、「書く」機会を増やした。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **85.4%** 県平均 **70.2%**

領域別平均通過率(英語)



通過設問数ごとの生徒割合(英語)



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査 ◇:全国学力・学習状況調査

◎・・・「読むこと」において、適切な語を用いた会話文の組み立て、特に疑問詞を使った疑問文の作り方を問う問題の通過率が51.9%であった。また、話の流れを理解する問題の通過率が56.9%と、正答率が低かった。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

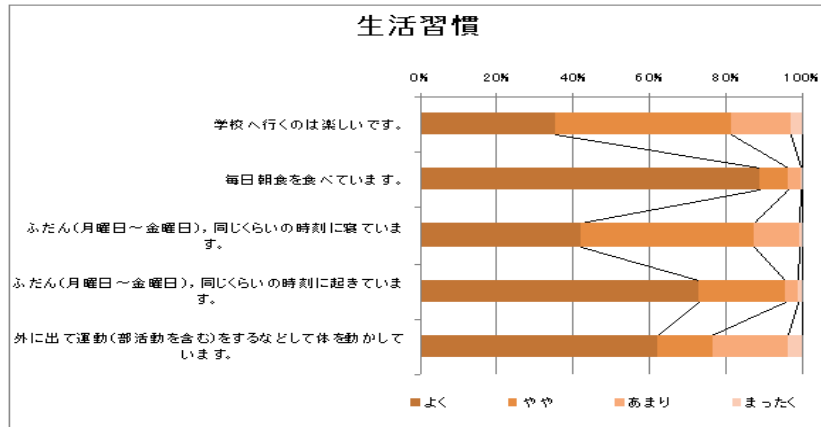
- ①疑問文の作り方、特に一般動詞と be 動詞の用法を理解させるために、文型ドリルを継続的に取り組む。1年生の段階で基本の定着を図るとともに、2, 3年生においても授業の中で繰り返し復習をする。
- ②話の流れをつかむ際のポイントとなる代名詞の意味・内容を問う問題を、教科書本文の読み取る際に意識して指導する。

来年度の目標値

- すべての設問において、通過率を県平均よりも、4ポイント以上上回る。
- 誤答率が45%以上になる設問を出さないようにする

2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査, 生徒質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：学校質問紙, 生徒質問紙)

(1) 生活・学習

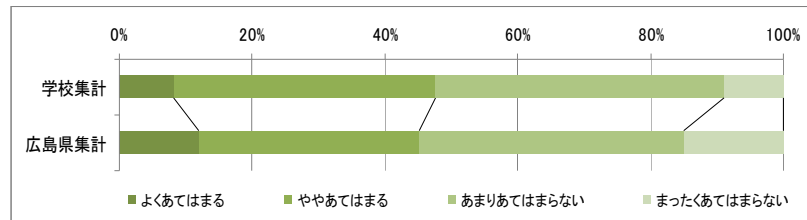


改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎平日に何時間くらいテレビを観たりゲームをしたりするという質問内容について、1日2時間以上するという生徒の割合が61.2%であった。それに対し家庭学習を1時間しない生徒の割合が53.9%である。 ◎学校の授業の復習をするようにしている生徒が55.0%, 自分で勉強の計画立てている生徒が43.5%と低い。 ◇1ヶ月に3冊以上本を読んでいる生徒が、40.8%である。	○ 三者懇談や学校だよりなどを通して保護者と連携をとり、基本的な生活習慣を呼びかける。 ○ その日に学習した内容の復習ができるような課題を各教科が連携してバランスよく出していき、家庭学習の定着を図る。 ○ 図書だよりによる情報発信や学級文庫などの設置など、生徒が身近に読書ができる環境の工夫を行う。

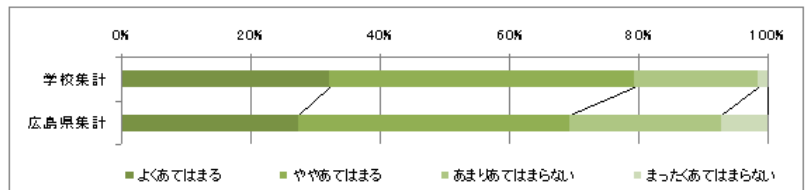
来年度の目標値	目標
	・ 自分で勉強の計画を立てて行う生徒の割合を60%以上にする。 ・ 家庭学習を1時間しない生徒の割合を20%以下にする。

(2) 教科

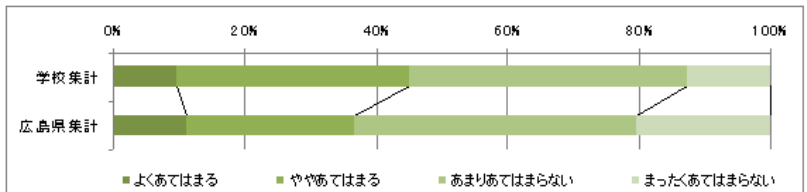
国語の授業を楽しみにしています。



自分の考えや解き方と比べながら友だちや先生の説明を聞いている。



英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。



	生徒の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎ 「国語の授業を楽しみにしています」と答えた生徒が47.7%と少ない。 ◎ 「分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べます」と答えた生徒が64.6%に増えた。前年度は56.3%であった。 ◇ 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と答えた生徒が57.3%と少ない。	○ 「国語の授業はよく分かります」と答えた生徒が79.6%であったことから理解が難しいことが問題ではないことがいえる。PISA型「読解力」でいうところの「情報の取り出し」「解釈」に留まる読解で終わるのではなく、「熟考・評価」させる学習活動を取り入れ、思考させる場を増やす。
数学	◎ 「自分の考え方や解き方と比べながら友だちや先生の説明を聞いている」と肯定的に回答している生徒は79.2%であったが、「理由をあげて自分の考え方や解き方を説明している」と回答した生徒は、48%と低く、昨年度よりも3.3%減少している。 ◇ 「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」と答えた生徒が52.2%と少ない。	○ 「話し方」「聞き方」をさらに意識させながら授業を行っていく。学習活動においては、問題を解くだけでなく、「なぜそうなったのか」「なぜそう考えたのか」など理由を考えさせる場面を設定する。さらに、ペアやグループ活動を取り入れ、自分の考えや意見を説明する場面も設定する。
英語	◎ 「自分の考えや気持ちなどを英語で話している」という生徒の割合が45.0%と昨年度より2.1%伸びてはいるが、依然と低い結果がでた。また、「話が長くようにつなぎ言葉などを用いて話している」と答えた生徒の割合は48.1%と低くなっている。	○ 授業の中で、ペアを活用しお互いの意見を伝え合う活動を全学年で継続的に取り入れる。さらにその中で、意図的につなぎ言葉を入れながらプラス1文を加える練習をする。また、生徒が自分の成長がわかるように評価を工夫する。

来年度の目標値	目標
	・ 「授業を楽しみにしている」という生徒を6割以上にする。 ・ 自分の考えや意見を伝えようとする生徒を6割から7割にする。

指導改善のための実施スケジュール

	～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
	Plan		Do			Check	検証	Action	Check	
	結果の分析・H2 1の改善計画の見直し H2 2の改善計画の実施						次年度の計画			
【教科】										
国語		説明文において、筆者の書きぶりに対して吟味する指導の徹底	古典において、情景描写や登場人物の言動から登場人物の心情を考える指導の徹底			根拠を明らかにして、読み手を意識しながら意見文を書く指導の徹底		説明文において、説明文の題材について自分の身の回りと比較しながら読む指導の徹底	校内教科研修の実施	
数学		1次関数では、式や表、グラフから分かること、気づいたことなどを友だちに発表する指導の徹底		図形では、筋道を立てて考え根拠を明らかにして、証明を書かせる指導の徹底			確率において、図や表を丁寧に書かせる指導の徹底			
英語		既習の表現を使ったペアでのQA練習を全学年で取り組む指導の徹底 答える際、プラス1文を付け加える練習も行う。				ALTによるインタビューテストを実施する。		年間の総復習として文型ドリルを行う。		
【生活・学習】										
		家庭学習の継続と定着をさせる。	三者懇談（保護者連携） 家庭学習の継続と定着をさせる。	個人面談（生徒） 生活習慣・学習習慣の見直し 調べ学習を意識した授業展開		個人面談（生徒） 生活習慣・学習習慣の見直し		個人面談（生徒） 生活習慣・学習習慣の見直し		
					家庭学習の継続と定着をさせる。		家庭学習の継続と定着をさせる。			